

Phoenix

Version 2012.1 主要新機能

Rev 18J

DVO 機能拡張

新DVO Video ツールセット * 既存のPhoenixには、オプションで追加可能

新しいツールセットであるDVO Videoは特にアナログビデオ映像の修復に力を発揮します。このツールは高度に自動化されており、また以下の機能を実装しています。

DVO Cross Colour - クロスカラーを除去します。デジタルカメラの偽色も軽減可能です。



DVO Line Sync - アナログテープに出現するラインシンクエラーの軽減除去を行います。



DVO Video ツールセット (続き)

- DVO Dropout - ビデオドロップアウトの自動補正ツール
- DVO Fix - より大きな面積のドロップアウトの補正ツール
- DVO Dropout+Fix - 自動で修正された映像に対して、手動でより細かい修正を追加。
- DVO Noise - 動き補償つきビデオノイズ削減、抑制ツール
- DVO Aperture - 画像のシャープ化

処理機能の向上

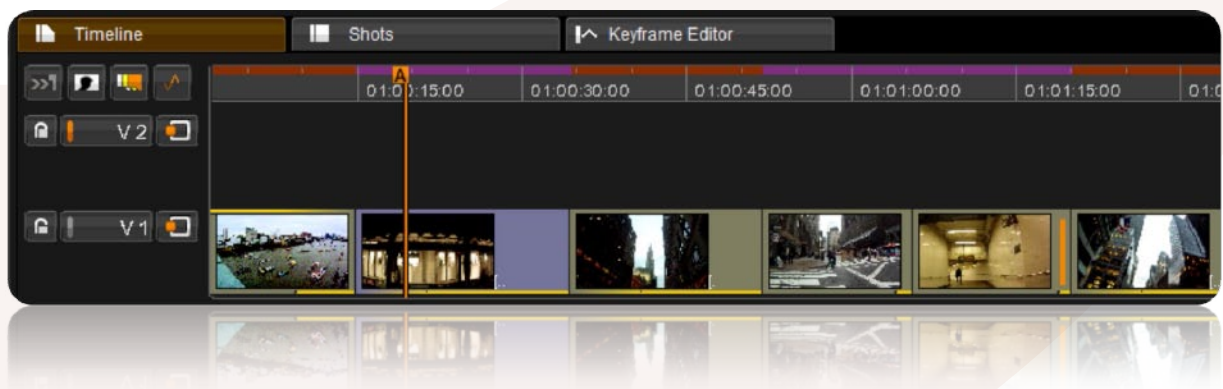
I² レンダリング・エンジン

レンダリングスケジュールアルゴリズムを書き直したことにより、レンダリング時の速度と信頼性が向上し、また同一のショットに複数のDVOなどを適用した際の、作業時の応答性が改善されました。

さらにこの効果を発揮するためのシステムの設定は、ソフトウェアがシステムにインストールされる際に自動的に記述されます。
設定の初期値は、多くのカラーグレーディング処理時などに最適に処理ができるよう、設定がされています。

ファーストパス レンダリング インジケーター

レンダリングエンジンが改良され、DVO Steadyなど2回目のレンダリングパスが必要な場合に、タイムライン上の表示が紫色で表示され、自動的に2回のレンダリングがかかるようになりました。
最初のレンダリングパスが終了した部分は、タイムライン上では従来通り赤色で表示されます。



Avid Artist Color Panel



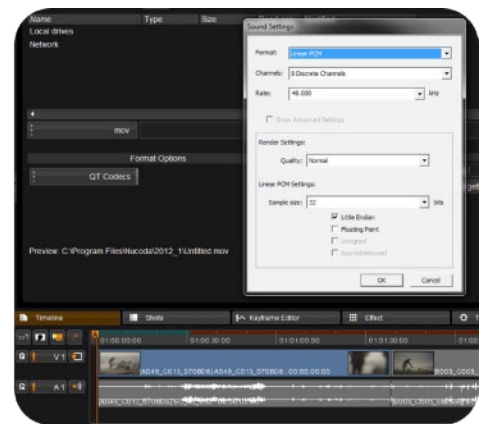
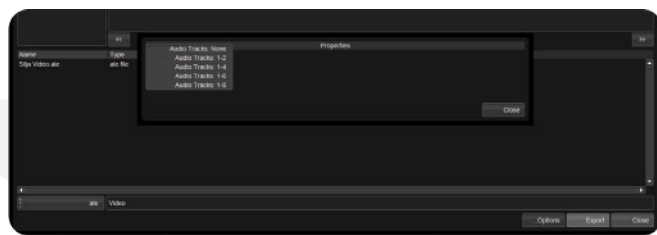
Phoenix Finish は Avid Artist Color Panel をサポートします。

オーディオ

MXF または Quicktime へのオーディオ書き出しができるようになりました。

*MXFファイルの取り扱いは、Phoenix RefineとPhoenix Touchではオプション (Advanced Codec option)となります。

現状でのMXF OP1Aへのオーディオの出力に加え、Quicktimeおよび MXF OP-Atomへのオーディオの出力ができるようになりました。



ALEエクスポート機能が拡張し、ユーザーはALEに追加するトラック数の選択ができるようになりました。ミュートに設定されたトラックはエクスポートの際には無視されます。

キャプチャー時に、オーディオウェーブフォームが表示されます。

ビデオのキャプチャー時にビデオウィンドウ内に、キャプチャーしているオーディオのウェーブフォームがオーバーレイ表示されるようになりました。

オーディオが間違いなくキャプチャーされているか、確認することに役立ちます。

DVO Dust+Fix

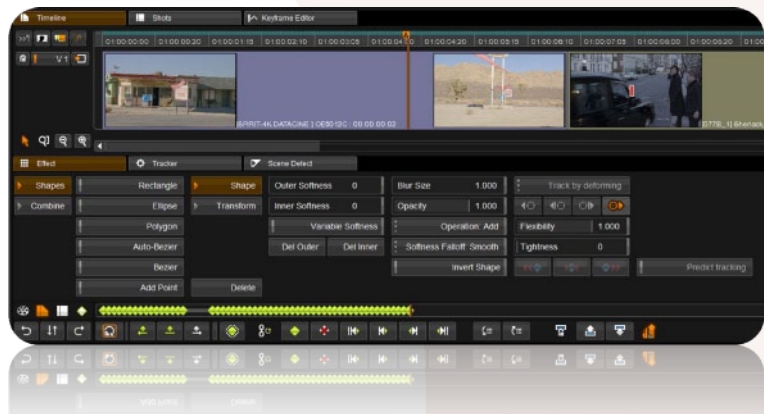
自動のダスト除去機能とマニュアルでの作業ができる、DVO DUST+FIXの機能がFXレイヤーとしても適用可能になりました。

新機能であるデフォーマブル・シェイプ・トラッカーとの組み合わせにより、エフェクトの適用範囲を限定し、より効果的な結果をもたらすことが可能となります。

エフェクトの差し替え機能

現在レイヤーで選択されているツールと、他のツールとの差し替えができるようになりました。

差し替えたいツールを選択した状態で、Ctrlキーを押しながらレイヤーを削除すると、差し替えができます。



デフォーマブル・シェイプ・トラッカー

シェイプトラッカーが進化をし、今まではトラッキングをしてからシェイプの変形を行っていましたが、最新版では自動的にシェイプは、トラッキングしたオブジェクトに追従して変形するようになりました。

オート・ベジエ・スプラインシェイプツール

この新しいスプラインツールは、シンプルかつ迅速に、ユーザーにシェイプを描画する方法を提供します。



デジタル・カメラ サポート*

* 本機能は Phoenix Finish のみに追加可能なオプション (RAW Camera format support) として提供されます。

RED - HDRx, Redcolor3 に対応。ACESワークフローにも対応。



RED のデコーダーが4.3にアップデートし、HDRxファイルのデコードに対応しました。

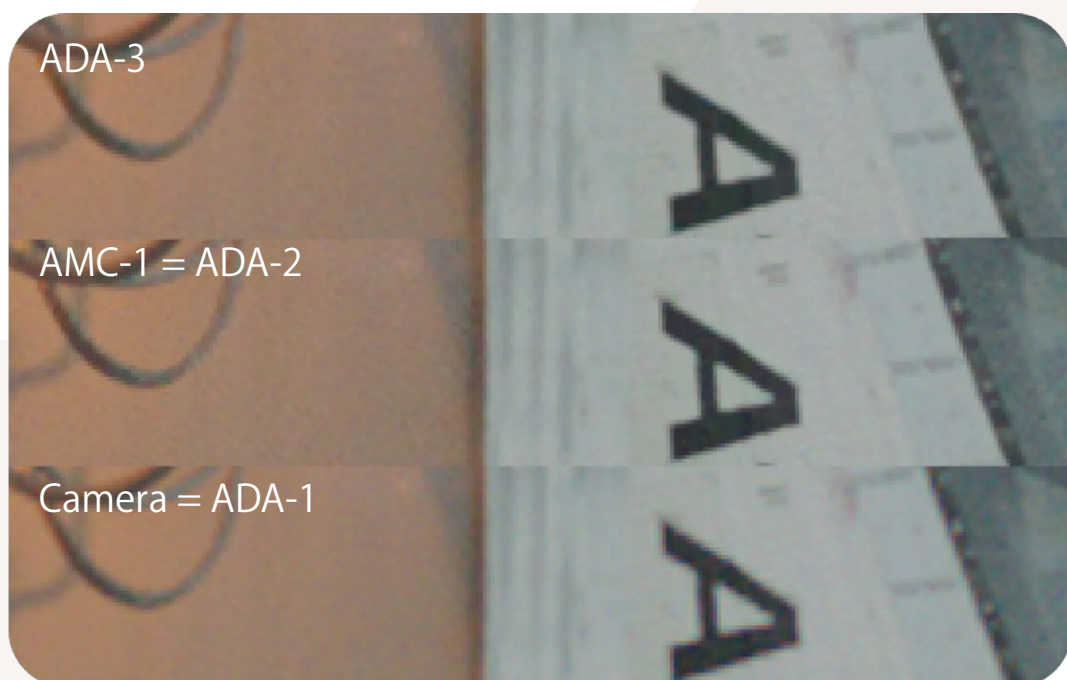
- ACESカラースペースへのアウトプットに対応しました。
- REDgamma3とREDcolor3が現像のプロパティに加わりました。
- REDのプロパティ表示の配置が、最適化されました。

ARRI - SDKがアップデートし ADA-3およびACESをサポート。

ARRI SDK が 4.3 にアップデート
ACESカラースペースへの出力
およびAlexaStudioを
サポートしました。



新しい現像アルゴリズム ADA-3 をサポートしました。

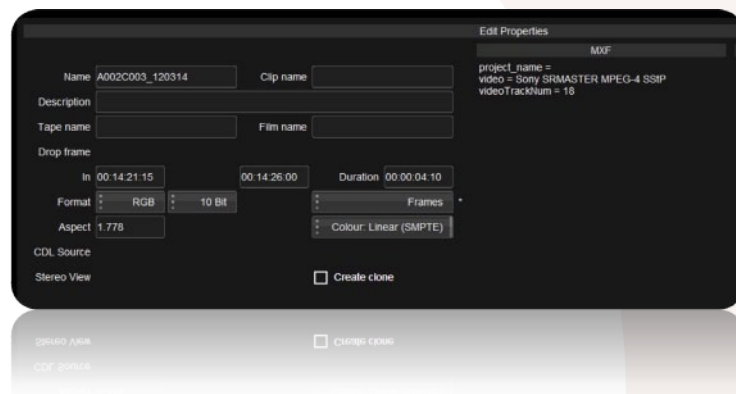


キヤノン

- Canon EOS MXF (XDCAM 50) サポート

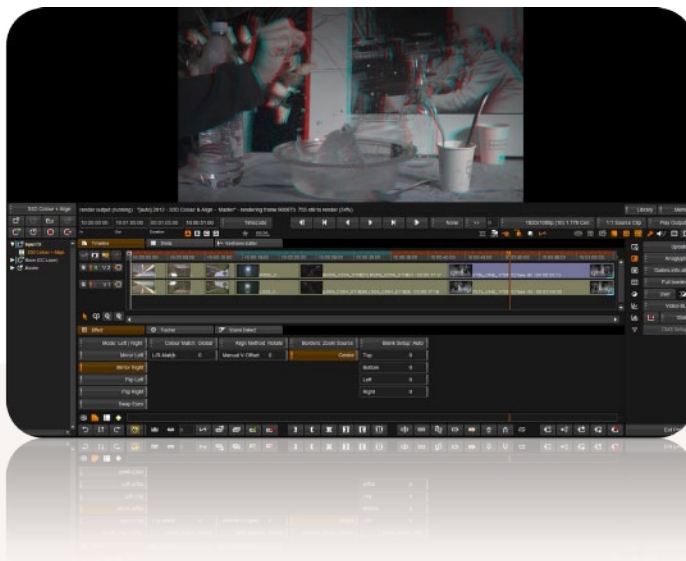
Sony

- Sony SRMaster (SSTP MPEG-4) F65 MXF サポート



Tools

ステレオスコピック “S3D 自動カラー & 整列ツール”



新たに搭載された「自動カラー & 整列ツール」は形状モーフィングとカラーマッチを含む、3Dカメラの画像の調整を行う機能を提供します。

ACES*

* Phoenix Finish にのみ標準搭載。その他のプロダクトについてはオプションとなります。

ACES (SMPTE 2065) ワークフローのサポート



ACES カラースケーリング

新たにSMPTE ST 2065-1-2012をサポートするACES カラースケーリングオプションがプロジェクト設定画面に追加されました。

ACES 作業時のピボットポイント

ACESプロジェクト内において、カラーツールを使用する際、色の変更点（ピボットポイント）は選択されたプレビュートランスフォームに一致します。

ACES SMPTE コンテナのサポート

OpenEXR形式のエクスポートの際のオプション項目に ACES (SMPTE “ACES Image Container File Layout”) が追加されました。



非ACESイメージへのIDT適用

非ACESの映像に、IDTを適用し ACESカラースペースに変換することができます

IDT をサポートしているフォーマット

- Rec709
- DPX 10 Bit Log (ADX 10)
- R3D
RAW R3D から ACES カラースペースへの変換
- .ari
RAW Arri Alexa から ACES カラースペースへの変換
- Generic 800ASA Log-C

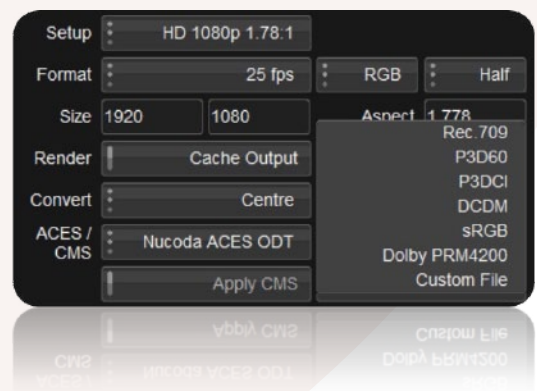
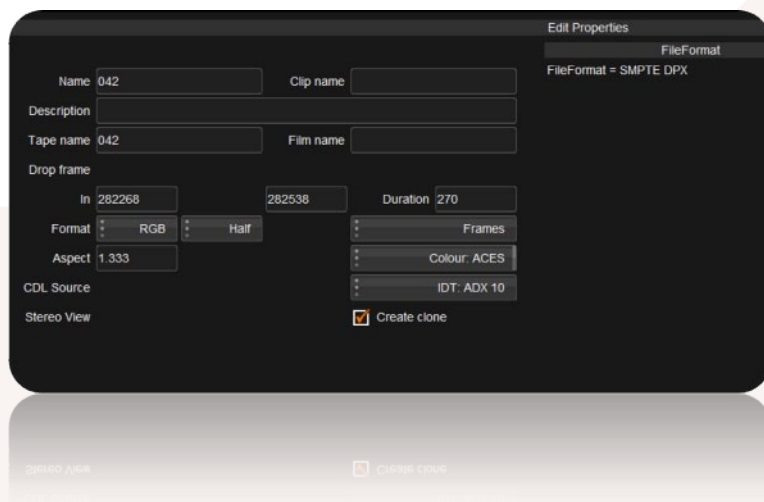
ACES RRT

- ACES RRT (v0.1.1) 搭載

Nucoda ACES ODT

下記フォーマットに対応する Nucoda ACES ODT を搭載

- P3D60
- P3DCI
- DCDM
- sRGB
- Dolby PRM4200
- Rec.709
- Rec.709-Clip
- ユーザーが作成した ODT も LUT として適用が可能。



Project 互換性

2011.2 で作成されたプロジェクトは 2012.1 で開くことが可能です。
(但し、キャッシュファイルは削除されます。)

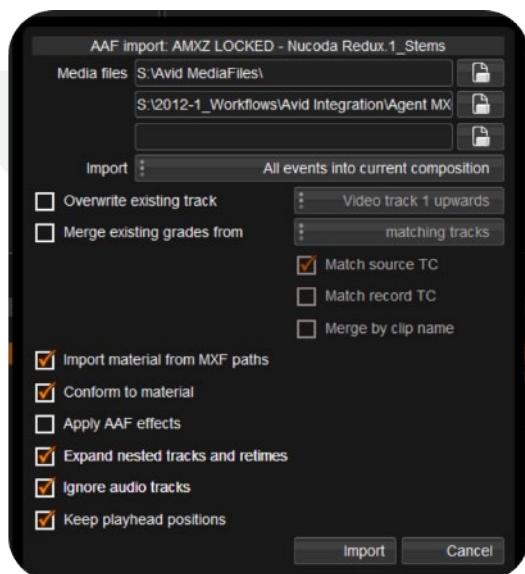
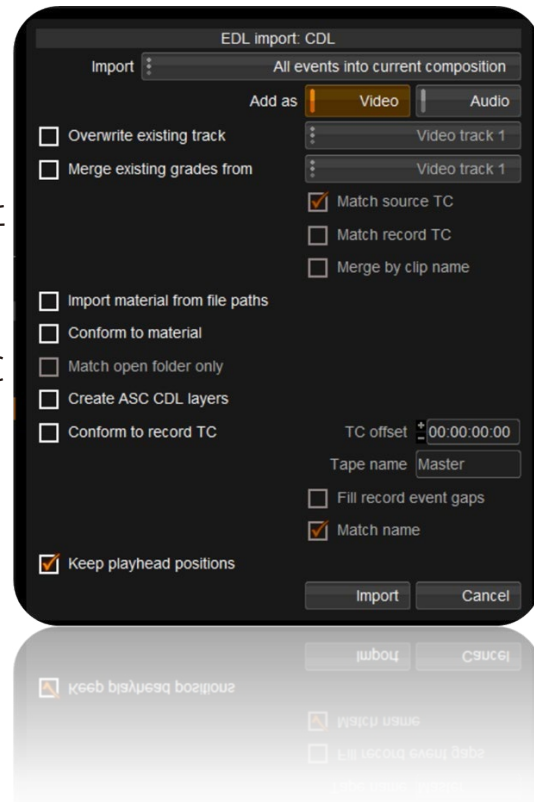
EDL 機能拡張

EDLファイルはステレオスコピックのプロジェクトにおいて、左右のトラックに適用することが可能です。

“Match open library folder only” オプションがEDLインポートダイアログに追加されました。

“Conform to Record TC”モードで24fpsのEDLを読み込んだ際に、EDL内でソースTCが30fpsと表記がされている場合、それらのフレームレートは24fpsに変換がされます。

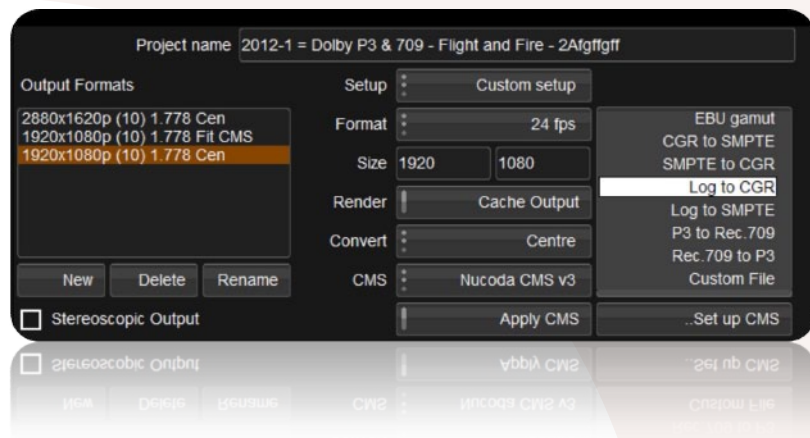
新しい設定項目により、ユーザーはASC-CDLの値をMasterレイヤーに適用するかBaseレイヤーに適用するか選択ができるようになります。



AAF import

AAF インポートの際にオーディオトラックを無視するかどうか、設定ができるようになりました。

CMS



新たに CMSPresets.Prefs が追加され、頻繁に使用するCMSが迅速に適用できるようになりました。

Nucoda CMS v3 CMS にいくつかのサンプルファイルが追加されました。

ALE エクスポート

ALEエクスポート機能が拡張され、下記のデータフィールドがALEに追加されました。

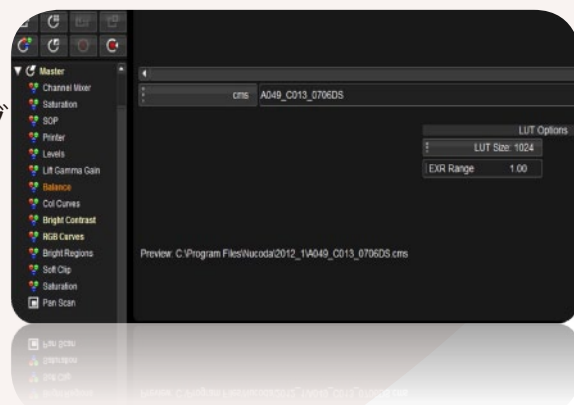
- Clip Name
- Material Name
- Project
- File Location
- Audio Tracks

GUI

LUT 出力機能

Nucoda (v3)CMSの出力機能が加わりました。現行バージョンでは、Master レイヤーのカラーグレーディングが出力されます。

この機能のために、“Export LUT”ボタンが、ライブラリに追加されました。



Output フォーマットのリネーム

プロジェクトスクリーン内の
アウトプットフォーマットの名前を
ユーザーが任意の名称に変更できる
ようになりました。



新規 キーボード・ショートカット

- CTRL+Insert : Router内 “Use Cache” 機能ON
- CTRL+Delete : Router内 “Use Cache” 機能OFF

HUD

HUD内のファイルロケーションが、全て（フルパスで）表示されるように改善しました。

Gamma Matrix （ガンママトリクスツール）

- Rec.709 pre/post gamma 機能が追加
- 2.2 Gamma 設定が追加
- リセットを含む、新規プリセットメニュー

VTR

エンベデッドSDIオーディオが、再生時とオーディオキャプチャーの際の
デフォルトの設定となるよう変更

ファイル サポート

- モノクロDPXイメージの読み込み／書き出しのサポート
- 12ビットDPXサポート
- ACESプロジェクトで使用するためのDPXの設定項目が Clip Prefs に追加
- サードパーティソフトウェアから出力されたMXFのコーデック認識アルゴリズムの向上
- DNxHD 444 MXF OP-Atom のサポート

Preferences（プリファレンス）

- スプライン描画の際の、デフォルト設定をベジエまたはオート・ベジエから選択が可能
- デフォルトトラッカーの設定が、シェイプトラッカーまたは、デフォームトラッカーか選択が可能

コマンドライン インターフェイス (CLI)

- ステレオスコピックプロジェクトのCLIからの作成
- EDLをインポートする際のトラックの設定
- DPXエクスポートの際のオプション項目の追加
- ACESプレビュートランスフォームの設定が可能

DVO Sharpen

DVO Sharpen - エクステンデッド レンジ イメージへの対応

新製品 Phoenix Video

DVO Videoツールセット+DVO Convertツールセット 搭載

ビデオ映像の修復・補正に最適化されたPhoenix Videoは1インチ、Uマチック、ベータカムSPなどの過去のビデオ映像資産を現代に蘇らせます。
搭載されたDVO Videoツールセットの機能により、ビデオのドロップアウト、ノイズ、クロスカラー、ラインシンクエラーなどのアーティファクトを検知し、除去します。

新ラインナップPhoenix Videoには、上記修復機能に加え、高画質なフレームレート変換、アップコンバートにもお使いいただけるDVO Convertツールセットも搭載しています。